

## 第4回辰巳ダムデザイン検討委員会 議事要旨

### 【日時】

平成 18 年 7 月 28 日(金) 13:30 ~ 16:00

### 【場所】

石川県庁 11階 1109 会議室

### 【出席者】

玉井 信行 委員長、 川村 國夫 委員、 北浦 勝 委員、 鏑 隆弘 委員、  
橋本 澄夫 委員、 山岸 政雄 委員、 吉田 等 委員、 畦地 実 委員、  
石井 達夫 委員、 野尻 安司 委員 (計 10 名) (全員出席)

### 【会議概要】

#### 1. 開会

・事務局の司会進行により、開会された。

#### 2. 挨拶

・玉井委員長より、挨拶が行われた。

#### 3. 議事

- 1) 議事の公開の可否確認
- 2) 第3回辰巳ダムデザイン検討委員会議事要旨の確認
- 3) 前回委員会までの意見と今後の対応・検討方針
- 4) 堤体デザインのまとめ
  - ・修正上下流面デザイン
  - ・天端空間のデザイン
- 5) 周辺環境整備計画
  - ・右岸下流部の計画
  - ・左岸天端部の計画
  - ・上流盛土部の計画
- 6) 今後のスケジュール

・上記議事について、事務局より説明、各委員による質疑・意見交換がなされた。意見等議事内容については議事概要に示す。

#### 4. 閉会

・事務局より、閉会の挨拶が行われた。

## 【議事概要】

- 1) 議事の公開の可否確認
    - ・会議の公開について確認が行われ、委員の了承を得た。
  - 2) 第3回辰巳ダムデザイン検討委員会議事要旨の確認
    - ・事務局より、第3回辰巳ダムデザイン検討委員会議事要旨(案)について説明が行われた。訂正事項等がある場合は、8月4日(金)までに連絡いただくこととして、修正の後、公開する旨の確認がなされた。
  - 3) 前回委員会までの意見と今後の対応・検討方針
    - ・第3回辰巳ダムデザイン検討委員会での委員意見と審議結果のまとめについて、事務局より、説明が行われ、今後の対応・検討方針について確認がなされた。
  - 4) 堤体デザインのまとめ
  - 5) 周辺環境整備計画
    - ・事務局より、堤体デザインのまとめ及び周辺環境整備計画について説明がなされ、引き続いて討議が行われた。
- ・各委員からの主な意見・質問は以下のとおり。

### 堤体デザインのまとめ

#### (上下流面)

- ・基本的な上下流面のデザインについては了承された。(全委員)
- ・強調する部分以外の水平打継目については、できるだけ目立たないような工夫をしていただきたい。(吉田委員)
- ・強調する部分は凹凸どちらか。(北浦委員)

#### (天端空間デザイン)

- ・天端高欄の色について、黒は非常に強い色で遠景からも目立つので、避けた方がよい。(山岸委員)
- ・縦棧は、歩行者や車など斜めから見た場合に連続で見えてしまうので、色と合わせて、材質や部材厚・形状についても、今後、設計にあたって詰めていく必要がある。(山岸委員、鏗委員)
- ・コンクリート高欄の外側の形状については、直線の方がよい。(山岸委員)
- ・高欄の高さは1.2mということであるが、足がかりがないようにするなど、設計時には安全性について十分考慮してほしい。(石井委員)

### 周辺環境整備計画

#### (右岸下流部)

- ・東岩取入口への管理用通路がつながるような計画としてほしい。(畦地委員)
- ・上部の市道を自動車が行った際の振動により、東岩取入口管理時に落石等の危険があるので、上部の市道について補修等なんらかの措置を講じてほしい。(畦地委員)
- ・戸室石の石積方法について慎重に検討してほしい。(山岸委員)
- ・金沢城での石積方法が参考となる。(橋本委員)
- ・減勢工内の土砂などについて、維持管理を十分に検討していく必要がある。(川村委員)
- ・魚道というのは必ず水が流れていくので、流れの相当先の方まで床固めをしておかないと、魚道は浮き上がってしまって、魚が上がってこられないことになるので留意してほしい。(川村委員)
- ・魚道等について、コンクリート面からの照り返しが強いと考えられるが、魚は遡上するか否か。(川村委員)
- ・前々回でも懸案となっていたが、トンネル部が暗いと魚が遡上できない可能性がある。将来的には上下流双方で魚を放流することも考えられる。(野尻委員)

(左岸天端部)

- ・左岸の掘削法面は最終的に緑化を目的にしていると思うが、北向きの急な斜面なので、郷土的な種類の種子で吹きつけということになると、安定するまでかなり時間がかかると思う。植栽のための補助小段や、最上段より種がこぼれていくような現存の植生帯など、早期緑化に向けて配慮してほしい。(鏝委員)
- ・管理棟デザインは重要である。溶け込んでいくデザインとか、寄り添っていくデザインとか、あるいはコントラストがあるデザインとか、方向性は様々だが、でき上がったときに管理棟のデザインで全体のデザイン思想と齟齬しないように、よいデザインで、きちんと納めてほしい。(山岸委員)
- ・管理棟と広場が一体にデザインできるような体制で、設計を進めていただきたい。上流部の広場の形も関連してくるので、ランドスケープデザイナーと建築が協働していくことを望む。(鏝委員)
- ・広場計画においては、利用側面だけでなく、景観側面にも配慮する。すなわち、内部だけでなく、周辺のランドマークとなる山に軸を取るとか周辺地形に合わせるとか、外のスケールにもあわせるような配慮が必要である。(鏝委員)
- ・辰巳ダムの売りは辰巳用水であると思う。管理庁舎や四阿などに、何か金沢城や兼六園との関係がみえる部分があってよいと思う。(吉田委員)
- ・辰巳用水のトンネル復元模型は、本物志向であるべきである。金沢市がやっている測量調査などを参考にして、どの部分が良いのかという協議をした上で、当時の蚤跡などを忠実に再現し、これはこの部分の復元であるということを明らかにできるようなものとするのがよい。(橋本委員)
- ・トンネル模型はもう少し長い方がよいと思う。(玉井委員長、橋本委員、畦地委員)
- ・辰巳用水には、多くの横穴があり、その入り口の部分に平場があり、当時の作業スペースになっていた。そういったところの発掘結果を参考として、寛永の頃に実際に掘削をするときの作業の実態について、学習できるような仕組みができればいい。(橋本委員)
- ・辰巳用水が、何のために、いつ掘られたというようなことを解説する程度の説明板等の整備は、最低限必要だと思う。しかし、それ以上に踏み込んだ保存、管理あるいは利用ということになると、文化財サイドで文化庁と相談した上で、よりよいものをつくるというのが一つの方向だと思う。(橋本委員)

(上流盛土部)

- ・上流盛土部について、湛水した後のごみや土砂の状況が気になる。(石井委員)
- ・上流盛土標高(EL110.0)の決め方について、切り盛りバランスによるものなのか教えてほしい。学習の場として利用することを考えると、盛土標高を上げて、冠水頻度を減らしたほうがよいと考える。(川村委員)
- ・試験湛水は実施するのか。また、する場合は提示のような整備は、試験湛水前か後かいずれのタイミングで行うのか教えてほしい。(川村委員)

6) 今後のスケジュール

- ・今回及びこれまでの委員会における審議結果について事務局にて整理し、第5回で議論がまとまれば、最終案としてとりまとめを行うことで合意を得た。